平成 29 年 7 月 4 日　教育民生常任委員会　議会報告会／シティ・ミーティング概要

【議会報告会】

○あけぼの学園移転整備事業について、現在のあけぼの学園の職員の体制は、移転後も変わらないのか。あがたハイツ行のバスの本数が少ないため、新しいあけぼの学園への交通手段については、十分配慮してほしい。

⇒議員　人事に関することであるため、確たることは言えないが、専門職については異動しないのではないかと考えている。学園には通園バスもあるが、あがたハイツ行きのバスについては、市内全体の公共交通という観点から意見を出していきたいと考える。

○現在のあけぼの学園は西日野にあり、市の中南部の利用者が多かったと記憶している。これが市北部へ移転することになり、通園にかなりの時間を要することとなるが、様々な合併症を抱える肢体不自由児にとって、負担になるのではないか。この点について、保護者から意見はないのか。

⇒議員　通園している児童の住所の分布は把握していないが、逆に住所が近くなる人もいると考えるため、一度状況を確認したい。

○現在のあけぼの学園の跡地利用は検討されているのか。

⇒議員　跡地の活用法についてはまだ確定したものはない。学園の移転により使い勝手の悪くなる児童もいると考えられるため、機能の一部を残してサービスを継続した方がよいのではないかと議論している。現段階で、更地にするという議論にはなっていない。

○移転後のあけぼの学園について、小児整形外科医及び児童精神科医との連携が重要となるが、医師は確保できているのか。可能であれば、市内で十分な医療ケアが受けられるような連携が望ましいと考えるがどうか。

⇒議員　現段階で、整形外科医による診察や児童の精神面のケアについての連携は行っていく。これまでは診察を受けるために津市まで出向く必要があったが、移動の最中に子供の体調が悪くなり、診察を断念するケースもあったと聞いているため、市内

にサテライト型の診療所を設置するなど、本市で必要な診察が受けられるような体制の整備について要望を行っているところである。

○保育所の待機児童について、４月１日現在の人数は昨年度より減少していると聞いているが、６月末現在の人数は把握しているか。

⇒議員　待機児童数として報告されているのは、４月１日現在と10月１日現在の人数であり、６月末現在の人数は把握していない。４月１日現在の待機児童数54名のうち、52名が２歳児までのクラスであり、２歳児までの需要が圧倒的に多い状況である。昨年度と同様に、10月１日には待機児童数が140名から150名ほどになるのではないかと考える。

○大矢知興譲小学校区・朝明中学校区の教育環境課題解決について、一般質問において、名指しこそなかったものの、他地区の住民が、八郷地区の住民を先導しているような気がするという、裏のとれていないような内容の発言がなされた。このような観点ではなく、地域の子供たちに何が必要なのか、本当の教育課題は何なのかということを議論すべきではないか。

⇒議員　意見として承る。

○内部幼稚園の近隣に、新しく保育園ができるとのことであるが、幼稚園の金額も保育園と同様に応能負担に変わる中で、幼稚園の人数が減少するのではないかと危惧する。

⇒議員　意見として承る。

【シティ・ミーティング】

グループＡにおいて出された主な意見

○がん検診の受診率が向上していることは良いことであるが、勤務の都合で平日に検診が受けられない場合もある。土曜日、日曜日にも検診を行っているとのことであるため、さらに受診率が向上するようこのような取り組みを進めてほしい。

○現在、中学校給食基本構想の策定が行われているが、市がどのような給食を目指しているのかが一般市民には知らされていないため、周知徹底してほしい。また、基本構想策定委員会については、小学校長会や中学校長会、市Ｐ連、学識経験者等で構成されると

聞いているが、本来であれば公募すべきであったと考えており、この体制では市民の思いや声を反映できるのか疑問である。特に小中学生の保護者の意見を積極的に取り入れるべきであり、市Ｐ連のみでは幅広い意見を反映できないのではないか。

○中学校給食について、自分の作った弁当を子供たちに持たせてやりたいという保護者も多いため、その点も考慮してほしい。

○ＮＰＯ法人等が「こども食堂」を整備する動きが全国的に広がりつつあるが、今の社会は、夫婦共働きで親の帰りの遅い家庭もあるため、子供の栄養面を考えれば、こうした取り組みを増やしていく必要があるのではないか。

○現在、中学校給食はデリバリー給食と家庭弁当の選択制となっているが、小学校と同じように全員が同じものを食べられる環境が子供の貧困対策に有効と考える。全国的にも中学校給食の実施が進む中、本市の取り組みは遅いと感じるため、良い手法を見出し、早期に実現してほしい。センター方式では食中毒等の対応に課題があるため、可能であれば小学校と同様の自校調理方式を追求すべきではないか。

○県外の出身であり、中学校給食は当たり前であったため、本市で今議論していることが不思議である。また、弁当よりも給食の方が健康的であったと思う。

○県外の出身であり、中学校給食は当たり前であったが、弁当の方が量が多いため、うらやましいと思っていた。

○本市の学童保育は民設民営であるが、施設を増設してもそれ以上にニーズがある、希望はあるものの保育料がネックとなり入所させない保護者もいるといった点から、この方式は保護者のニーズに応えきれないと考える。公的な支援をもう少し充実させるべきであり、本来なら公設を目指すべきではないか。

○小山田地区にはこれまで学童保育所がなかったが、地元の尽力により民間施設を活用してようやく開設された。しかし、場所が学校から離れており、道路状況からも生徒の移動は大変危険である。人口の少ない小山田地区でなぜ学校施設が活用できないのか疑問であり、空き教室ができるのであれば使わせてもらいたい。

○三重小学校区の学童保育所については、年々人数が増えており、待機児童の問題も心配される。また、非常に古い施設であるため、耐震状況も心配である。「子育てするなら四日市」を掲げるのであれば、最初に取り組むべき課題ではないか。

○笹川東小学校及び笹川西小学校の統合方針が先日示されたところであるが、現笹川西小学校について、学童保育に活用するのもよいのではないかと考える。

○中心市街地活性化の一環として、庁舎東側における新図書館を核とした拠点施設についての基本計画策定が進められているが、そのことを市民があまり知らない状況である。庁舎東側は、非常に狭く、市民交流施設や喫茶店も含めた複合施設として検討されている状況において、図書館の書庫は閉架式でビルの高層階に設けざるを得ず、また、現在の図書館は車による来館が多いにもかかわらず、駐車場確保も困難であることから、当該地に整備するのであれば、中央図書館としてふさわしくないと考える。さらに、その狭さからゆったりとくつろげる空間が確保できない、現在全市的に展開している自動車文庫が維持できなくなるという心配もある。図書館を所管する教育民生常任委員会としても、基本計画が策定されるまで待つのではなく、そこに至る過程にも関心を持ち、意見を反映させてもらいたい。

○中心市街地活性化に向けた対策と、望ましい図書館の在り方については、当初より分けて議論すべきではなかったのかと考える。

○防災機能を考えた場合、何も建設されていない空地は将来的に必ず必要となると考える。そのような中で庁舎東側の空地で新図書館を含めた拠点施設を建設することには疑問がある。他の場所で、図書館としてゆったりくつろげる施設を整備した方がよいのではないか。

○小学校へのエレベーターの設置について、増改築に合わせて行うこととしているとのことだが、エレベーターを設置することで肢体不自由児が自分で行動を起こし、様々なことに挑戦できるようになり、その経験は、ひいては国の将来の経済活性化にもつながると考える。児童の挑戦する心を摘んでほしくはないため、子育てしやすいまちを目指すのであれば、ぜひ状況に応じたエレベーターの整備をしてほしい。財政的な面を考慮しての対応であることは理解するが、予算は創るものであると考える。

○肢体不自由児が小学校に入学しており、以前よりエレベーターの設置を要望しているが、教育委員会からは、財政面や、障害者差別解消法における合理的配慮を理由に設置できないとの回答をもらっている。外での運動が困難であるため、図書室での読書など、自分なりのスクールライフを見つけてほしいと考えているが、特別教室が上階にあり、誰かに助けてもらわなければ上がることができず、そのための休み時間も十分にないというのが現状である。学年が上がるほど、人の助けを得ながら移動することが恥ずかしいという気持ちも出てくると考えるため、児童の精神面にも配慮し、エレベーターの状況に応じた設置について検討してほしい。

○県外の出身であるが、地元よりも本市は交通渋滞が多いと感じた。

○県外の出身であるが、雪が積もった際、なぜ除雪をしないのか疑問に感じた。

グループＢにおいて出された主な意見

○名古屋市が平成29年４月１日現在での待機児童数ゼロを達成したと発表した。新市長は「子育てするなら四日市」を掲げている中、財政面を見ても名古屋市でできるのであれば、本市も待機児童数ゼロを達成できるのではないか。

○本市の学童保育所は民設民営であるが、同格都市では公設としている場所が多いと考える。学童保育の入所対象の拡大に伴い待機児童も発生する中、現状では、施設拡大に向けて「民」自らが土地建物を確保する必要があるほか、保育所に比べて保育時間が短くなる等、保護者にとって負担がかかる状況である。保護者の負担軽減のためにも、行政自らが責任を持って学童保育所を運営することが必要ではないか。

○平成30年度より幼稚園保育料が応能負担となるが、保護者としては保育料の階層区分をもう少し細分化し、負担を少なくしてほしい。また、値上げするのであれば、そのメリットを享受できるような幼稚園の運営をお願いしたい。

○保育園にはエアコンが設置されているが、幼稚園の保育室にはない。保育園へのエアコン設置に向けては、園職員が夏と冬の室温の状況と子供たちの健康状態について独自に調査し、子供の健康管理上エアコンは必要であると判断して運動を行った。児童の健康管理上必要であれば、保護者や職員が積極的に訴えていくべきではないか。

○現在、庁舎東側広場において新図書館を核とした中心市街地拠点施設について基本計画の策定作業が進められているが、現在の候補地での整備は、自動車文庫の実施が困難となること、防災面や駐車場の不足の面において問題であると考える。また、来館者のほとんどが図書館を利用すると思われる状況において、教育行政を所管する教育民生常任委員会としても、基本計画の策定前から議論を行うことを望む。

○新図書館にかかるシンポジウム及び地域での懇談会が開催されているが、あさけプラザで行われた懇談会の参加者は非常に少なかった。また、シンポジウムにおいて、グループ討議を行ったが、庁舎東側での整備についての期待感はなかったと感じている。このような状況で行政はどのように意見をくみ取っていくのか心配である。意見のひとつひとつに向き合っていく姿勢が大事ではないか。

○中心市街地での図書館の移転整備については以前より話があり、期待していたもののい

まだに実現できていないため、早期の整備をお願いしたい。また、現状の図書館は学習室が狭いため、学習室を広くしてほしい。

○現市立図書館のおはなし会の会場となっている「おはなしのかまくら」について、狭くて子供たちがゆったりと語り手の話を聞ける環境にないため、広くしてほしい。

○市内のどこに住んでいても行きやすいように、東西２カ所に図書館が必要であると考える。

○どのような年齢層が主に利用するかが、図書館や複合施設の計画に影響すると考える。若者、親子連れ、高齢者等それぞれの求める機能は異なるため、多角的な視点からの検討が必要と考える。

○図書館について、財政状況に配慮しながら良いものをつくることは難しい面もあるが、長期的に見ればある程度の投資は必要であると考える。10年後、20年後を見据え、将来の四日市市に貢献する人材を育成するという観点から取り組むべきである。

○橋北交流会館について、給食の運搬がスムーズに機能していないとの話を聞いている。また、橋北こども園の園庭は狭く、貸出としているグラウンドを、なぜ園児や子育て支援センターに来る児童が使えないのか疑問である。館内のスペースは広いものの、外での遊びと館内での遊びは、内容も体に与える影響も異なり、代用の効くものではない。設計時に、実際に利用する側の意見を担当部局がうまく拾えなかった結果ではないか。

○他県の出身であるが、三重県は渋滞が多いため、道路を広くしてほしい。

○道路の白線が消えかかっている箇所があり、夜には非常に見づらく、特に自転車に乗っているときに怖い思いをする。できれば自転車専用レーンを整備してほしい。